

2005年生田緑地ゲンジボタル調査報告

亀岡千佳子*1・新村 治*2

The report of the firefly at Ikuta-Ryokuchi Park in 2005

Chikako Kameoka *1 Osamu Nimura*2

1 はじめに

青少年科学館では1983年～1987年・川崎市自然環境調査Ⅰの水生昆虫調査で生田緑地の谷間の探勝路にゲンジボタルの幼虫が生息し、5月下旬頃から7月初旬頃まで成虫も多数発生していることが確認された。以来生田緑地のホタルについて注目し、ピーク時のみの発生数の確認作業を行い、1993年の青少年科学館紀要で木下が観察記録を発表している。その後、生田緑地内にはゲンジボタルを含め6種のホタル、ムネクリイロボタル、カタモンミナミボタル、ヘイケボタル、オバボタル、スジグロボタル(林1991)、クロマドボタル(川田・岩田・高橋・昆虫班1995)が確認されている。

1998年からはゲンジボタル成虫の初見日～終息日までの発生カウント調査をおこなっている。今年度で8年目になる。また、併せてスジグロボタルの幼虫の発光確認作業もおこなっている。調査は館職員と「かわさき自然調査団」の昆虫班であるが、2002年度から調査に加わってくれた市民の方も引き続きホタル調査員として今年度の調査に参加頂いた。2005年の調査結果がまとまったので報告する。

2 調査方法

設定した調査日の19時に青少年科学館に調査者が集合し、19時30分までに調査者を調査場所に向かわせ、19時30分から19時50分までの20分間に目視により発光を確認したホタル数を記録した。調査者が足りず、調査場所に調査者を張りつけることが出来ないときは、20分間に調査場所を巡回し調査した。数人で調査した場合、個人によりカウント数にばらつきが生じたが、その場で協議し、概ね平均数を記録した。記録は発行ホタル数の他に調査時の天気と気温を調査票に記入した。また、調査場所は昨年発生が確認された5ヶ所と、最近まで発生が確認されていたが現在は確認されていない場所の3ヶ所をくわえて8ヶ所とした。

3 調査期間

毎年、全国的に生物季節が早まっているようで、5月になると各地からのホタルだよりが聞こえてくる。しかし、生田緑地の成虫初見日は2002～2004年と例年通り、6月に入ってからの発生であったため、今年も例年通りと予想し、調査開始日は5月28日からとした。消滅は例年だと7月中旬頃だが、昨年2004年は10日以上も早まり7月4日であった。しかし、昨年度に関しては一過性の事と考え、調査終了日はやはり7月15日までとした。ホタル発生日は予想よりは5日ほど遅れ、また消滅日は例年にもどり7月16日になったが、調査期間は妥当なものであった。

4 調査場所

- ① 駐車場奥
- ② 奥の池
- ③ 奥の池南側谷戸
- ④ 旧岡本谷戸
- ⑤ 科学館奥
- ⑥ マレーゼの谷(戸隠谷戸)
- ⑦ 湿地帯下休耕田(ホタルの里)
- ⑧ 谷間の探勝路(木道)

の8ヶ所

5 調査参加者

新村 治	森下 祐子	菊池 なつみ
松尾 浩暢	小山 明人	菅原 彰宏
高岡 英希	成川 秀幸	国司 真
重井 美香	松本 栄文	甲谷 保和
菊地 典明	太田 麻奈美	山口 功子
佐野 悦子	岩崎 由紀子	佐藤 俊一
亀岡 千佳子		

(19名)

延べ調査者数 74名

6 調査結果

調査結果は表1

天気、気温は調査時のもの。

7 まとめ

- ・2005年の成虫発生時期は初見日が若干遅れ、消滅日が例年並みとなり、延べ発生数は2004年と同数であった。
- ・生田緑地での初見日は6月11日、⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)、最終確認は7月14日⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)⑧谷間の探勝路であった。
- ・緑地全体の延べ発生数は昨年と同数351匹であった。しかし昨年まで確認されていた⑥マレーゼの谷(戸隠谷戸)では成虫の発生は確認できなかった。また、2003・2004年と続けてホタルの飛翔を確認できた藤棚の池では、今年は確認することができなかった。⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)⑧谷間の探勝路では、昨年よりも成虫発生数が増え、他の場所ではほぼ横ばいであった。
- ・各調査場所の最多確認数は、①駐車場奥(13)、②奥の池(1)、③奥の池南側谷戸(1)、④旧岡本谷戸(確認されず)、⑤科学館奥(8)、⑥マレーゼの谷(戸隠谷戸)(0)、⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)(28)、⑧谷間の探勝路(木道)(36)

であった。

・今年の発生数のピークは6月25日から30日にかけてであった。

・今年度の調査から生田緑地のゲンジボタルの発生について概観する。今年度は初見日が5日ほど遅れたので、発生数のピークが3日ほど後ろにずれた。1999年から減少していたホタル延べ発生数は、今年度、前年度と同数になり、減少にはならなかった。前年激減した⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)(27)、⑧谷間の探勝路(木道)(36)ではピーク時の数が増加した。1998年からゲンジボタル成虫の発生カウント調査をおこなってきた。1999～2004年の5年間、減少し続けてきたホタルの延べ発生数が、2005年の今年初めて止まった。ホタルの発生数は6年から7年の周期で発生数が増減するといわれている。発生数が来年以降、増加に転ずるか、減少するか継続調査を続け、今までの減少が自然周期の中での発生数の減少だったのかを注目していかないといけないことである。

終わりに、暑くて多忙な中、会社や学校の帰りに青少年科学館に立ち寄り、調査に協力して下さった沢山の方々に厚く感謝申し上げます。

表1

2005年生田緑地ホタル調査報告表

月	日	曜日	天気	気温	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
5	31	火	晴れ	19.7	0	0	0	0	0	0	0	0	
6	2	木	雨	20.8	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5	日	曇り	21.0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	7	火	曇り	21.6	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9	木	曇り	22.8	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	土	曇り	21.9	0	0	0	0	0	0	1	0	
	14	火	曇り	22.9	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	16	木	雨	18.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19	日	晴れ	22.8	0	0	0	0	2	0	10	10	
	21	火	曇り	24.3	2	0	0	0	8	0	15	10	
	23	木	曇り	22.9	4	0	0	0	6	0	14	18	
	25	土	晴れ	26.8	8	0	1	0	8	0	21	28	
	28	火	曇り	28.8	13	1	0	0	3	0	28	36	
30	木	曇り	25.3	7	0	0	0	5	0	19	23		
7	3	日	雨	20.7	—	—	—	—	—	—	—	—	
	5	火	曇り	24.8	3	0	0	—	2	0	16	6	
	7	木	曇り	22.6	0	0	0	0	0	0	11	4	
	9	土	雨	21.2	—	—	—	—	—	—	—	—	
	12	火	曇り	22.3	0	0	0	0	0	0	0	1	
	14	木	曇り	23.6	—	—	—	—	—	—	1	1	
	16	土	曇り	27.1	—	—	—	—	—	—	0	0	
	18	月	曇り	28.8	—	—	—	—	—	—	0	0	